

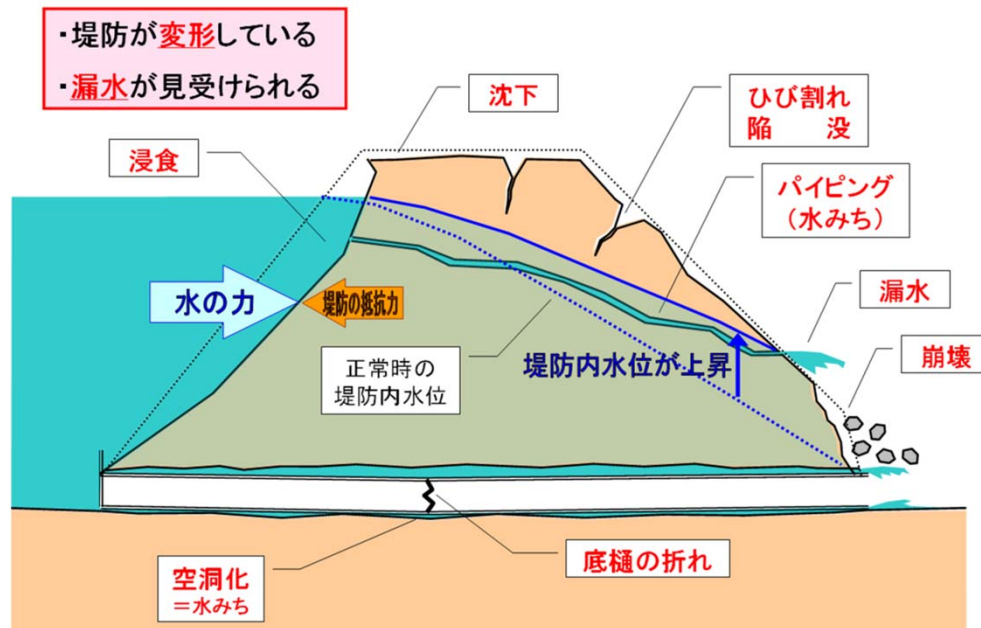
ため池管理の留意点

状態変化を見逃さないこと

- 観察が容易にできるよう、草刈り、清掃を定期的に行う。
- できるだけこまめに足を運び、全体を観察する。

※「見回りは大雨や台風の直前だけ」では、変化に気づかなかつたり（雨の中での観察では漏水が発見されにくい）、不良箇所気づいても手当てが間に合わない場合がある。

老朽化したため池 どれか一つでも該当すれば要注意！



『沈下』の例



• 堤防内部に空洞ができている可能性がある。

『陥没』『漏水』の例



• 漏水、水みち（パイピング孔）も確認できる。【直径約40cmの陥没】

『漏水』『パイピング孔』の例



• 堤防裏側下部から多量の漏水。
• 直径20cm程度の大きなパイピング孔も確認できる。

漏水に『濁り』



• 濁りに濁りが生じている。
• 堤体の土が吸い出されている可能性が高い。

観察の際の着眼点 堤体

- 貯水側斜面がえぐられたり、吸い込まれるような孔がないか
- 堤防の上や裏側斜面に陥没、崩れ、亀裂、漏水はないか
 - ☆ 漏水については、特に次のポイントに気をつけて観察
 - 漏水の量や色の変化（増えたり、濁ったりしていないか）
 - 1箇所に集中していないか、漏水箇所が高い位置にないか
- 堤防に下がっている部分はないか
- 堤防に大きな樹木や切り株がないか

草木が繁茂



• 雑草や樹木、竹などが生い茂っていると、堤防の強度低下の原因になったり、不良箇所の発見が遅れたりして危険！

観察の際の着眼点

余水吐

- 流れにくくなっていないか（断面が小さくなっていないか）
 - ・ 流木や土砂、ゴミなどが溜まっていないか
 - ・ 雑草、竹、樹木が生えていないか
 - ・ 板などでせき上げしてないか
- 満水の際にはきちんと流れているか
 - ・ 外側（下部、側部）を流れていないか
 - ・ ひび割れ、孔などがあり、途中から流れ出していないか

底樋・斜樋

- 機能が低下したり、なくなったりしていないか
 - ☆ 次のようなことがないか
 - ・ 栓が開かない
 - ・ 栓を開けても水が出ない、出にくい
 - ・ 栓を閉めても水が出る
 - ・ ひび割れ、折れ、ズシなどがいないか
- 斜樋の周囲が大きくえぐられていないか

決壊に至るおそれのある主な要因

洪水吐の吐き出し能力不足

- ・ 流木や土砂、ゴミなどが溜まっている
- ・ ブロックや板などでせき上げられている

取水施設の破損

- ・ 取水施設が壊れていて、緊急放流ができない

貯水池内の山腹崩壊

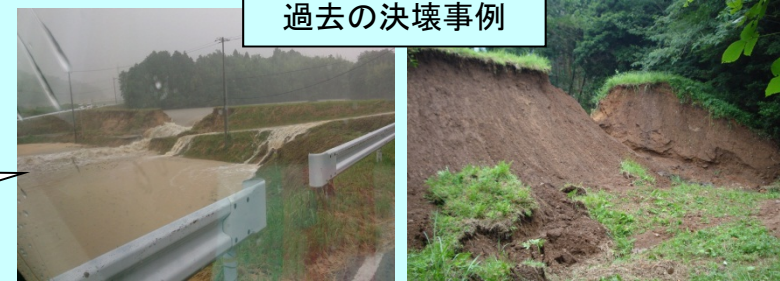
- ・ 土石流が一気に貯水池に流入

過去に経験したことのない大雨

- ・ かつてない流入量

決壊

過去の決壊事例



下流へ非常に大きな被害

- ・ 尊い命や財産が失われるおそれ
- ・ 河川や道路などの公共施設が被災すれば、広範囲に影響

不良箇所を見つけたら

● 不良箇所を見つけたら、すぐに手当てしておきましょう

「今まで大丈夫だったのだから、今後も大丈夫だろう」と、不良箇所を放置しておくのは非常に危険です。

● 緊急時の準備をしておきましょう

ため池が危険な状態になった場合、下流住民を避難させるとともに、直ちに水位を下げ、応急措置を講ずる必要があります。このため、すぐに避難連絡やポンプ、応急資材などの手配ができるよう、日頃から緊急連絡先の確認などの準備をしておきましょう。

● 適切に施設の更新・廃止を行いましょ

どんなものにも寿命があります。寿命が尽きる前に適切に更新（改修工事・補修）を行いましょ。これらの工事を行う場合は、国や県、市町の補助が受けられる場合があります。

★不良箇所を見つけたら、市役所（町役場）までご相談ください！